



文化財消防訓練（1月24日）

法隆寺金堂壁画が焼損した1月26日は「文化財防火デー」と定められ、全国で文化財防火運動が展開されました。

第61回文化財防火デーを迎えるにあたり、市でも1月24日、番場の蓮華寺で防火訓練が行われ、米原消防署や地元の消防団など約40人が参加しました。

この日は、蓮華寺境内の南西側から出火し、強風にあおられ火災が延焼拡大し、重要文化財が保管されている本堂に延焼する恐れがあるとの想定で行われました。寺関係者が初期消火や文化財の搬出を行い、消防団や米原消防署が消火にあたるなどして連携した素早い消火活動を行っていました。

今回の訓練を通して、貴重な文化財を守るため各関係機関の連携強化を図り、訓練の大切さを再認識できました。



動物の足跡を探しに（2月7日）

伊吹の森スノーシューハイク&アニマルウォッチングが曲谷で開催され、市内の親子連れなど20人が参加しました。これは地域の自然を学んでいただこうと、市と滋賀県立大学が協働で実施したもので、参加者はスノーシューを履いて姉川ダム周辺の森へ動物の足跡を探しに出かけました。

スタート地点の堂屋敷トンネル前では、早速キツネの足跡が見つかり「図鑑どおりの足跡が残ることは少ないので、どの動物かを区別する時は、1つの足跡だけでなく、連続した足跡を見ましょう」と、この日講師を務めた動物写真家の須藤一成さんからアドバイスがありました。

その後、参加者はスノーシューで散策しながら、サルの子の足跡や望遠鏡で野生のカモシカを見つけるなど、奥伊吹の大自然を楽しみました。



まいばら☆えんげK i D S発表会（2月11日）

米原公民館で演劇クラブ「まいばら☆えんげK i D S」が1回目の発表会を行いました。

米原公民館の演劇クラブである「まいばら☆えんげK i D S」は米原、坂田両小学校の2～4年生の児童8人がメンバーで、昨年4月からこの日まで毎週日曜日2時間練習を重ねてきました。

上演したのは演劇「アベコベモデル」。小学校を舞台に現実と理想の間で悩む児童の相談をアベコベ博士が引き受けるという物語。初めての発表会という事もあり、児童らは緊張している一面もありましたが、せりふをしっかりと覚えそれぞれの役になりきって演じていました。

この日、約80人が観覧に訪れ児童らの演技に魅了されました。今後の児童らの活躍が楽しみです。

